



平成 24 年 3 月 14 日

各 位

会社名 アストマックス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 本多 弘明  
(大証 JASDAQ・コード 8 7 3 4)  
問合せ先 常務取締役管理グループ 管掌役員  
小幡 健太郎  
(電話 03-5447-8400)

### 平成 24 年 3 月期 2 月度の月末運用資産残高及び運用収益率のお知らせ

今期(平成 24 年 3 月期) 2 月度のプログラム別月末運用資産残高及び運用収益率につきまして、添付のとおりお知らせいたします。

2 月の商品市況は、月半ばから月後半にかけて大きく上昇しました。ギリシャの債務再編問題の進展に伴い、為替市場でユーロがドルに対して上昇し、ドル建て商品価格の割安感につながったこと、また、米国の雇用の改善傾向が消費拡大につながるとの見方や、米国を中心とした景気回復基調を背景に株価が上昇したことで、投資家のリスク許容度が拡大し、商品市場にも買いが入りました。イランの核開発問題をめぐる懸念により原油価格が上昇したことも、商品市場全体を押し上げる要因となりました。

当社が公表しております円建てのアストマックス商品指数(AMCI)は、ドル円相場が月末にかけてドル高・円安基調を強め、1ドル=80円台を回復したことや、商品価格が全体的に上昇基調を強めたことから、1月末の 329.394 に対し、2月末は 368.611 と約 11.91%の大幅な上昇となりました。

エネルギー市場では、WTI 原油が大きく上昇し、1バレル=110ドルに迫る水準にまで上昇しました。1月の下落基調を受けて2月上旬までは上値の重い展開が続きましたが、イランの核開発問題に対する制裁措置として、欧州連合(EU)がイランからの原油輸入を禁止することに合意したことにより、イラン産原油の代替原油需要が高まるとの見方が価格を押し上げました。また、ギリシャ議会で財政緊縮法案が可決される一方、イランが欧州向け石油輸出を停止したとの報道も原油価格の上昇を後押ししました。米国での失業保険申請件数の減少やEU諸国のギリシャに対する1,300億ユーロの第2次支援の決定も、投資家心理の好転につながり、原油価格の上昇につながりました。

貴金属市場では、2月半ば以降堅調に推移していた金価格が月末に急落する展開となりました。米国や他の主要国における金融緩和策により、投資マネーの潤沢な供給が下支え要因になっていましたが、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が議会証言で、追加的な金融緩和策に言及しなかったことから嫌気売りが加速し、一時1トロイオンス当たり1,700ドルの大台を割り込みました。一方プラチナは、世界的に堅調な自動車販売や世界最大の生産国である南アフリカでの減産見通しから大きく上昇し、一時1トロイオンス当たり1,700ドルの大台を回復する場面もありました。

非鉄金属市場では、銅が概ね横ばいでの推移となりました。ロンドン金属取引所(LME)発表の在庫は減少傾向が続く一方、中国・上海先物取引所発表の在庫の増加傾向が続いており、中国国内の需要鈍化が懸念されていることが上値を抑えました。

穀物市場は総じて堅調に推移しました。特にブラジルやアルゼンチン等の南米の主要穀物産地での

生産高見通しの下方修正が続く大豆の上昇基調が顕著で、1ブッシェル当たり13ドル台を回復しました。一方、米国での今年度の作付面積が数十年ぶりの高水準と予想されるトウモロコシは、生産も歴史的な高水準に達するとの見方から上値の重い展開が続きました。

2月の株式市場は、欧州債務再編問題の進展や、米国景気指標が改善傾向を継続していることを受けて堅調に推移しました。特に米国雇用情勢が改善傾向にあることが個人消費の拡大につながるとの見方が強まっており、欧米株価はきわめて強い動きとなりました。世界の株価指数の上昇に対する出遅れ感が強かった日本の株式市場も欧米株式市場に追随する展開となり、TOPIXは1月末の755.27から2月末には835.96と大幅な上昇となりました。

当社が運用する資産残高は、AMCI 連動型運用への資金流入及び価格上昇に伴う資産増加が顕著となり、前月比4,401百万円増（10.63%増）の45,821百万円となりました。

尚、個別の運用資産残高、運用収益率は以下のとおりとなっております。

### 1. 運用資産残高

(単位：百万円)

プログラム名		平成23年 4月	平成23年 5月	平成23年 6月	平成23年 7月	平成23年 8月	平成23年 9月
投資 顧問 事業	商品						
	アストジェネシス	1,007	1,002	1,006	998	1,002	1,001
	AMCI	8,860	9,865	10,227	10,162	9,037	7,173
	コモディティ・バスケット型	563	559	545	547	565	477
	WTI 原油先物連動型	8,196	6,747	6,655	6,801	5,511	5,786
	金先物連動型	1,575	1,495	1,457	1,317	1,872	1,881
	証券						
債券運用戦略等	10,146	11,165	11,506	11,460	10,331	8,437	
ポートフォリオ・マネジメント	1,494	1,494	1,483	1,477	1,474	1,472	
合計		31,844	32,329	32,881	32,765	29,795	26,230

プログラム名		平成23年 10月	平成23年 11月	平成23年 12月	平成24年 1月	平成24年 2月	平成24年 3月
投資 顧問 事業	商品						
	アストジェネシス	1,007	1,002	812	807	801	
	AMCI	8,558	8,266	7,904	20,638	24,115	
	コモディティ・バスケット型	472	430	408	418	443	
	WTI 原油先物連動型	5,321	5,203	4,948	5,176	4,867	
	金先物連動型	2,856	3,220	3,045	4,075	4,818	
	証券						
債券運用戦略等	8,864	8,584	8,245	8,881	9,353		
ポートフォリオ・マネジメント	1,414	1,419	1,420	1,421	1,421		
合計		28,494	28,126	26,784	41,419	45,821	

## 2. 運用収益率

プログラム名			平成 23 年 4 月	平成 23 年 5 月	平成 23 年 6 月	平成 23 年 7 月	平成 23 年 8 月	平成 23 年 9 月
投資 顧問 事業	商品	アストジェネシス	-0.17%	-0.11%	0.20%	-0.72%	0.55%	-0.14%
	証券	該当なし	-	-	-	-	-	-

プログラム名			平成 23 年 10 月	平成 23 年 11 月	平成 23 年 12 月	平成 24 年 1 月	平成 24 年 2 月	平成 24 年 3 月
投資 顧問 事業	商品	アストジェネシス	0.65%	-0.46%	-0.29%	-0.79%	-0.76%	
	証券	該当なし	-	-	-	-	-	

- (注) 1. 上記の数値は原則、毎月月初より 10 営業日までに開示いたします。
2. 運用資産残高は時価純資産額、または時価純資産額にノーショナル・エクイティ(想定運用資産)を加えたもので、表示単位未満を切り捨てて表示しております。
- \* 先物市場を使った運用の場合、実際に証拠金として必要な資金が少額であることから、顧客によっては実際に預託する資金に想定運用資産を加えた資産額で運用する様に契約上取り決めることが多く、通常、この契約運用資産額が管理報酬の計算上のベースとなっています。この様に顧客との契約運用資産額のうち実際に資金が預託されていない金額をノーショナル・エクイティ(想定運用資産)と言います。
3. 複数の契約が存在する運用プログラムについては当該プログラムのコンポジットを作成し運用資産残高、運用収益率を算出しております。また、運用収益率は、成功報酬を伴う運用プログラムについてのみ掲載しております。
4. 総運用資産残高につきましては 1%以上の修正が生じた場合はその内容を開示いたします。
5. 「債券運用戦略等」には、顧客の運用方針に従い、当社が運用を担当している外国籍投資信託への投資に関する運用指図を行う契約残高を含んでいます。

以上